

保護者の皆様

西山田小学校  
校長 鬼頭 孝雄

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とし、国語・算数・理科の3教科を実施しています。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果

☆各領域における成果と課題

(☆よくできている ○できている ●課題がある ★大きく課題がある)

◎国語 ⇒ 全国の平均正答率を、やや上回っている。

#### 話すこと・聞くこと

●互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることについては、全国値を上回っているが、課題がある。

☆必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉えることについては、全国値を上回り、よくできている。

#### 書くこと

●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることについては、全国値をやや下回り、課題がある。

★文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることについては、全国値を上回っているが、大きく課題がある。

#### 読むこと

○登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることについては、全国値をやや下回っているが、できている。

●表現の効果を考えることについては、全国値を上回るが、課題がある。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては、全国値をやや下回っており、課題がある。

○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことについては、全国値を下回っているが、できている。

《国語科における成果と今後の指導の改善点について》

国語の説明的文章やスピーチについて、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと  
の中心を捉える力や、目的を明確にしながらか自分の考えをまとめる力は全国値を上回っている。一方で、意図に合  
った文章の書き出し方を考えたり、文章中で正しい漢字を書いたりする力には課題がある。また、全国値は上回  
ったが、互いの文章のよさを見つけたり、よさを言葉に表したりする力は十分ではなかった。

授業では、文章構成を意識しながら文を整えることや、新しく習った漢字だけでなく、今まで習った漢字の復  
習に力を入れていく。また、叙述から内容を捉えたり、互いの文章を読み合い、良い点や改善点を具体的に  
して、感想や意見を述べ合りする活動を取り入れていく。

◎算数⇒全国の平均正答率とほぼ同じ。

数と計算

- 「二つの数の最小公倍数を求めること」は、全国値よりやや下回るが、できている。
- 「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること」は全国値をやや上回り、できている。
- ★「示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察すること」は全国値を上回るが、課題がある。
- ☆「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目を求めること」は、全国値を上回り、よくできている。

《数と計算領域の課題》

目的に合った数の処理の仕方を考えられることができるようにする。

・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きく見たり小さく見たりして概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断することができるようにすることが大切である。

図形

- ★「正三角形の意味や性質をもとに、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること」は、全国値を下回り、大きく課題がある。
- 「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解すること」は、全国値を上回り、できている。
- 「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解すること」は全国値を下回り、課題がある。
- 「示された作図の手順をもとに、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断すること」は、全国値を下回り、課題がある。

《図形領域の課題》

図形の高次要素に着目して、図形の意味や性質、図形の構成の仕方について考察できるようにする。

・図形を考察する際には、辺の長さや角の大きさ、辺と辺・角と角の位置関係など、構成要素に着目して、図形の意味や性質をもとに、作図の仕方を考えたり、筋道を立てて説明したりすることができるようにすることが大切である。

## 変化と関係

- 「百分率で表された割合を分数で表すこと」は、全国値を下回り、課題がある。
- 「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること」は、全国値を上回り、できている。
- ★ 「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」は、全国値を下回り、大きく課題がある。
- ★ 「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること」は全国値を下回り、大きく課題がある。

### 《変化と測定領域の課題》

#### 基準量・比較量・割合の関係について理解する。

また、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにする。

- ・ 割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係を捉え、基準量・比較量・割合の関係について理解し、数学的に表現・処理できるようにすることが重要である。その際、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることが大切である。
- ・ 伴って変わる二つの数量の関係から未知の数量を求める場合には、表に整理して、二つの数量の関係に着目することや、示された割合になる二つの数量を考えることができることも大切である。

## データの活用

- ☆ 「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目を求めること」は、全国値を上回り、よくできている。
- 「分類整理されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察する」ことは、全国値を上回り、できている。
- 「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ること」は、全国値を上回り、できている。
- 「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述すること」は、全国値とほぼ同じだが、課題がある。

### 《データの活用領域の課題》

目的に応じてデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにすることが重要である。その際、分類されたデータについて、筋道を立てて考察できるようにすることが大切である。また、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにすることも大切である。

### 《算数科における成果と今後の指導の改善点について》

基本的な四則計算や知識を問う問題については、概ねできている。一方で、目的に合った概算をする問題や図形の構成要素に着目して、作図の手順から正しい図形を選ぶ問題や他者の考え方を解釈することが必要とされる問題については、課題がある。特に割合に関する問題では、問題場面の数量の関係を捉え、基準量・比較量・割合の関係について理解することに大きな課題が見られた。

このような結果から、基本的な計算や知識の習得はこれまで通り重視したうえで、低学年から問題場面を絵や図や式に表すことや、数量の関係を表したりすることを大切に指導する。また、複雑な問題や問題文が長くなる問題では無回答が10%ほど見られた。そこで、問題を理解するために表や図に整理するなど考えるための手段についても授業の中でも取り組む。

算数科の学習をその時間・その単元・その教科の中だけのものにせず、次の学習や他教科の学習、さらには、日常生活の問題を解決するために、算数科活用することができるよう、教科横断的に学習を進めていく。

## ◎理科 ⇒ 全国値をやや下回る。

### 物質

- 「メスシリンダーという器具の理解」は全国値を下回り、課題がある。
- 「メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けること」は、全国値を上回り、できている。
- ★ 「砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見いだし記述すること」は、全国値を下回り、大きく課題がある。

### エネルギー

- 「重ねた日光と的の温度についての問題を的確に把握し、問題を解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択すること」は全国値を下回り、課題がある。
- ★ 「日光が直進するといった光の性質について理解すること」は、全国値を下回り、大きく課題がある。
- ★ 「缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を、分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述すること」は全国値を下回り、大きく課題がある。

### 生命

- 「ナナホシテントウに関する問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決の道筋を構想すること」は全国値を上回り、できている。
- 「昆虫の育ち方と食べ物についての表に昆虫を加えているとき気付いたことを基に、適切な問題を見いだすこと」は全国値を下回り、課題がある。

### 地球

- 「天気と気温の変化を観察した結果を、分析して、解釈し、問題に正対した結論を導きだすこと」は全国値を下回るが、できている。
- 「冬の夜の気温の変化の仕方に対する他者の予想を基に、その予想が確かめられた場合に得られる結果を見通すこと」は全国値を下回り、課題がある。
- ★ 「冬の数日間の天気と気温について整理した資料を、分析して、解釈し、冬の晴れた夜を示す部分を読み取ること」は全国値を下回り、大きく課題がある。
- 「水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解すること」は全国値を上回るが、課題がある。

#### 《理科における成果と今後の指導の改善点において》

問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定し、理解を深める学習活動に取り組む。

結果などから結論を導きだすために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定する。

観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する。

問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する活動を行う。その際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動を行う。さらに、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。

## 2. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

### (1) 自分自身のことについて

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値をやや上回っている。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の設問に対して肯定的な回答は、全国値を上回っている。

### (2) 家庭生活について

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の設問に対して肯定的な回答は全国値を、やや上回っている。また、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という設問に対して「1時間以上」の回答は、全国値を上回っている。しかし、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の設問に対して「2時間以上」の回答は、全国値をやや下回っている。

### (3) 学校生活・学習について

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値をやや上回っている。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」という設問に対して「30分以上」の回答は、全国値を上回っている。また、「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。」の設問に対して「100冊より多い」の回答は、全国値を上回っている。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」という設問に対する肯定的な回答は全国値を下回っている。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」という設問に対する肯定的な回答は、全値をやや上回っている。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」という設問に対する肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「国語の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は6割程度である。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は、9割程度である。
- ・「算数の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は7割程度である。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は、8割程度である。
- ・「理科の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は、8割程度である。また、「理科の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は、9割程度である。

### (4) ICT機器の活用について

- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「普段から、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンも含む）をしますか。」「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。」の設問に対して「1時間より少ない」の回答は、全国値を上回っている。
- ・「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」

の設問に対して「週3回以上」の回答は、全国値を上回っている。

- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」の設問に対する肯定的な回答は、全国値をやや上回っている。

### 3. 今後の取り組み

吹田市教育委員会では、本調査を踏まえた「学力向上のための主要な視点」として、次の4つの視点を掲げています。

- ①9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- ②授業規律、生活規律の確立
- ③習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導
- ④自学自習力の育成

本校におきましても、これらの視点を大切にし、学力向上の取り組みを推進していきます。学習面においては、各教科で基礎学力の定着をめざすとともに、習熟度別指導を充実させ、子どもたちが主体的に学習でき、友達と学び合う良さを実感できるよう授業改善をさらに進めていきます。また、家庭学習のあり方については、校内で共通理解を図りながら、学年の発達段階に応じた自学自習力の育成に努めてまいります。また、児童が身に付けるべき資質・能力を育むための効果的なICTの活用の在り方を考え、児童がコンピュータ等の使い方についても考えられるよう、デジタル・シティズンシップ教育にも取り組んでまいります。

生活面においては、小中連携を図り、9年間を見通した規範意識の醸成に努めます。様々な教育活動を通して、それぞれの良さが発揮できるような役割や場を設けることにより、責任感を育み、自己肯定感・自己有用感をさらに高めていきます。

今後とも、個々の児童に応じた学力の向上と基本的な生活習慣の確立をめざし、ご家庭と連携しながら取り組みを進めてまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。